

第4回明舞まちづくり委員会（準備会） 報告

主 催 明舞まちづくり推進協議会・兵庫県住宅政策課
事務局 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所

平成21年3月5日（木）に開催した、第4回明舞まちづくり委員会（準備会）についてご報告します。今回は、これまで駆け足で進めてきた取り組みについて振り返り、今後の方向性を確認するとともに、次年度以降検討を進める課題について考える場として開催しました。

まず、今年度の取り組み報告として、これまでの3回の明舞まちづくり委員会についての報告と、明石側のサブセンターである朝霧ショップの活用方策検討WSの結果、明舞センターの空店舗を活用して開設された「明舞まちなカラボ」についてそれぞれ説明がありました。朝霧ショップ活用方策検討WSでは、気軽に集まれ、地域イベントを行う「地域の居場所」としての活用が提案されました。今後WS参加メンバーによって、地域住民への報告と実現へ向けたさらなる仲間集めなどの取り組みが進められます。「明舞まちなカラボ」では、県立大学の和田先生から、開設に至る経緯と、3月1日に学生参加による改修工事が行われカラボとしての体裁が整ってきたこと、また3月14日から4週連続で、毎週土曜日14時から16時まで（第1回のみ15時から）、地域住民との交流を兼ねた公開講座が実施されることなどの報告を頂きました。

本題として、事前質問として提示していた、「これまでの明舞まちづくり委員会（準備会）における取り組みを経て、新しい発見はありますか。また、疑問点等はありませんか。」に関する議論が行われました。「地域には様々な取り組みが進んでいることがわかった」という発見がある一方、「（まちづくり委員会は）これまでの組織との関係がわかりにくい」「目的をはっきり示し、成果を上げ、情報を地域へ流していかないと理解が得られないのでは」等の疑問点が出されました。

さらに、「今後〔明舞まちづくり委員会〕という場を、どのように活用できると思いますか。また、どんな場にしたいと思いますか。」という事前質問に対しては、「各主体が緩やかに連携する場」「情報交換、共有の場」「このメンバーが一堂に会する場はこれまでなかった。これだけでも貴重である。」といった意見があげられました。また、「この場で、是非議論したいテーマはありますか。」という質問には、「自治会組織の組織力低下対策について」「明舞祭りの実行について」「地域の担い手を発掘する方策」など、様々な主体が集まっているからこそ話し合えるテーマや、「この委員会自体のアピール方法」等を話し合うべきだ、等の意見が出されました。

話し合いの中で、この場の意義としては、「明舞団地の再生、活性化に関するあらゆる課題を話し合う場」「各主体が緩やかに連携、情報交換・共有を行う場」そして、情報を速やかに地域へ流す意味でも、「誰でも参加できる場にすべき」であろうということが見えてきました。

また、いくつかの疑問はあるがこの場の存在については意義のあることから、この取り組みを次年度も続けていくこと、来年度から「明舞まちづくり委員会」として取り組みを進めてゆくことについて合意が得られました。計4回の取り組みを経て、スタートした「明舞まちづくり委員会」。今後、地域の再生、活性化に向けてどのような役割を果たしてゆくのか、それは各主体の意識・取り組みにかかっていると見えそうです。

